

災害に強い国土幹線道路ネットワーク

高規格道路	4車線以上	2車線	事業中	調査中
直轄国道	4車線以上	2車線	事業中	調査中

高規格道路については、高規格幹線道路、地域高規格道路（計画路線）をベースに選定（R2.11時点）

主な防災上の課題箇所

ミッシングリンク	
暫定2車線[有料](うち優先整備区間)	

この他、大雨や豪雨、津波・越波、地震等による防災上の課題箇所がある。

調査中箇所(ネットワーク)	道路網調査	計画段階評価推進 / 都計・アセス推進
調査中箇所(交通拠点)	必要性等の調査	整備方針の検討 事業計画の検討

直轄改築・高速事業中箇所	今後5カ年開通予定区間	今後5カ年用地着手区間	今後5カ年工事着手区間
		R年度地区用地着手	R年度地区工事着手
			(改良orトンネルor橋梁)

R3年度新規事業化箇所(直轄改築・高速)

高速会社事業や補助事業は、開通見通しのみ記載している。
 計画段階評価や都市計画・環境アセスに着手している調査箇所については、今後5か年程度での新規事業化に向けた調査を推進。
 事業内容は、今後5か年で主に実施する内容を記載している。
 事業進捗見込み等については、今後予算状況等により変更になる場合がある。

■和歌山県内の道路事業における新たな開通見通し

開通予定時期	国道 番号	事業名	開通区間	開通 延長	参照 ページ	担当事務所
令和7年春	42	ありだ かいなん 有田海南道路	かいなん しもつ こみなみ 海南市下津町小南～ かいなん しみず 海南市冷水	2.9Km	4～7	和歌山河川 国道事務所
令和7年春	42	しみず 冷水拡幅	かいなん しみず 海南市冷水	0.4Km	〃	和歌山河川 国道事務所
令和6年秋	42	しんぐう きほう 新宮紀宝道路	(仮称) きほう 紀宝IC～ (仮称) しんぐうきた 新宮北IC	2.4Km	8～11	紀南河川 国道事務所
令和7年春	42	くしもと すさみ串本道路	(仮称) くしもと 串本IC～ すさみ南IC	19.2Km	12～15	紀南河川 国道事務所

※事業進捗見通し等については、今後予算状況等により変更になる場合がある。

国道42号 有田海南道路及び冷水拡幅の概要

国道42号有田海南道路は、有田市野から海南市冷水までの延長9.4kmのバイパス整備事業であり、冷水拡幅は、有田海南道路と接続する海南市冷水から海南市藤白までの延長1.1kmの現道拡幅事業です。

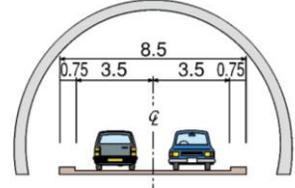
当該事業は国道42号現道の「渋滞の解消及び所要時間の短縮」「災害時の交通機能の確保」「交通事故の減少」などを目的とし、整備を進めています。

○開通概要と事業経緯

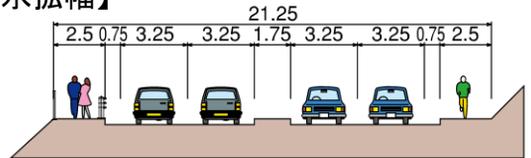
	ありだかいなん 有田海南道路	しみず 冷水拡幅
区間	かいなん しもつ こみなみ (起) 和歌山県海南市下津町小南 かいなん しみず (至) 和歌山県海南市冷水	かいなん しみず (起) 和歌山県海南市冷水 かいなん しみず (至) 和歌山県海南市冷水
道路延長	2.9km	0.4km
構造規格	第3種第2級	第3種第2級
設計速度	60km/h	60km/h
車線数	2車線	4車線
標準幅員	8.5m	21.25m
事業化	平成20年度	平成19年度
用地着手	平成23年度	平成21年度
工事着手	平成27年度	平成23年度

○開通区間の標準断面図

ありだかいなん
【有田海南道路:トンネル部】



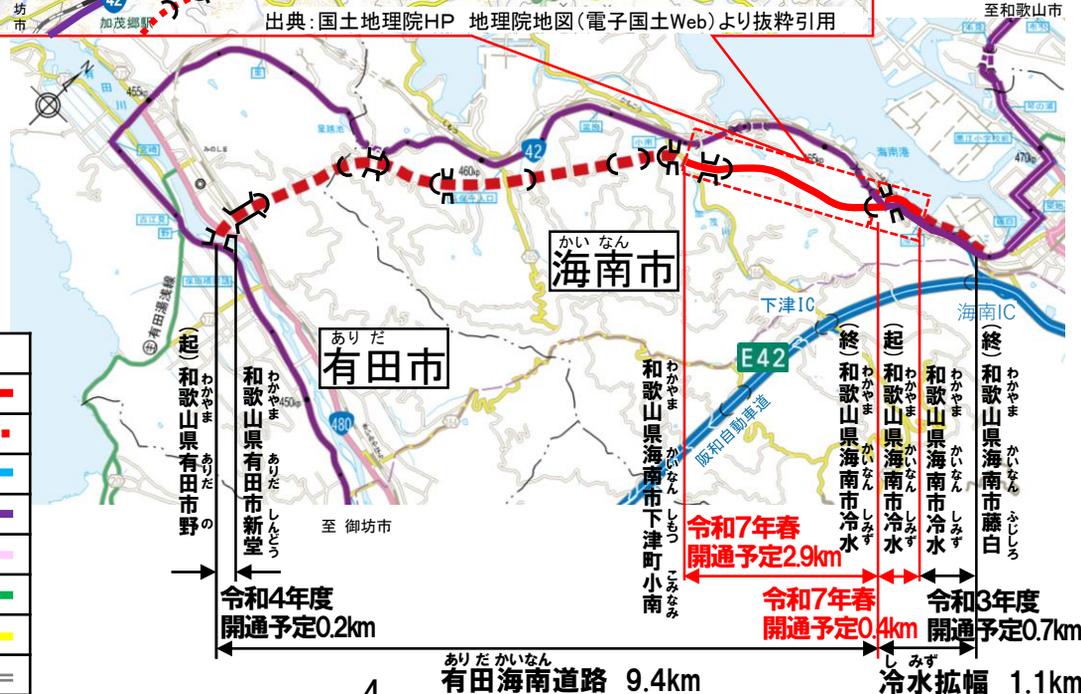
しみず
【冷水拡幅】



【拡大図】



【位置図】



凡 例	
事業中(対象区間)	———
事業中
高速自動車道	———
一般国道(指定区間)	———
一般国道(指定区間外)	———
主要地方道	———
県道	———
その他一般道路	———

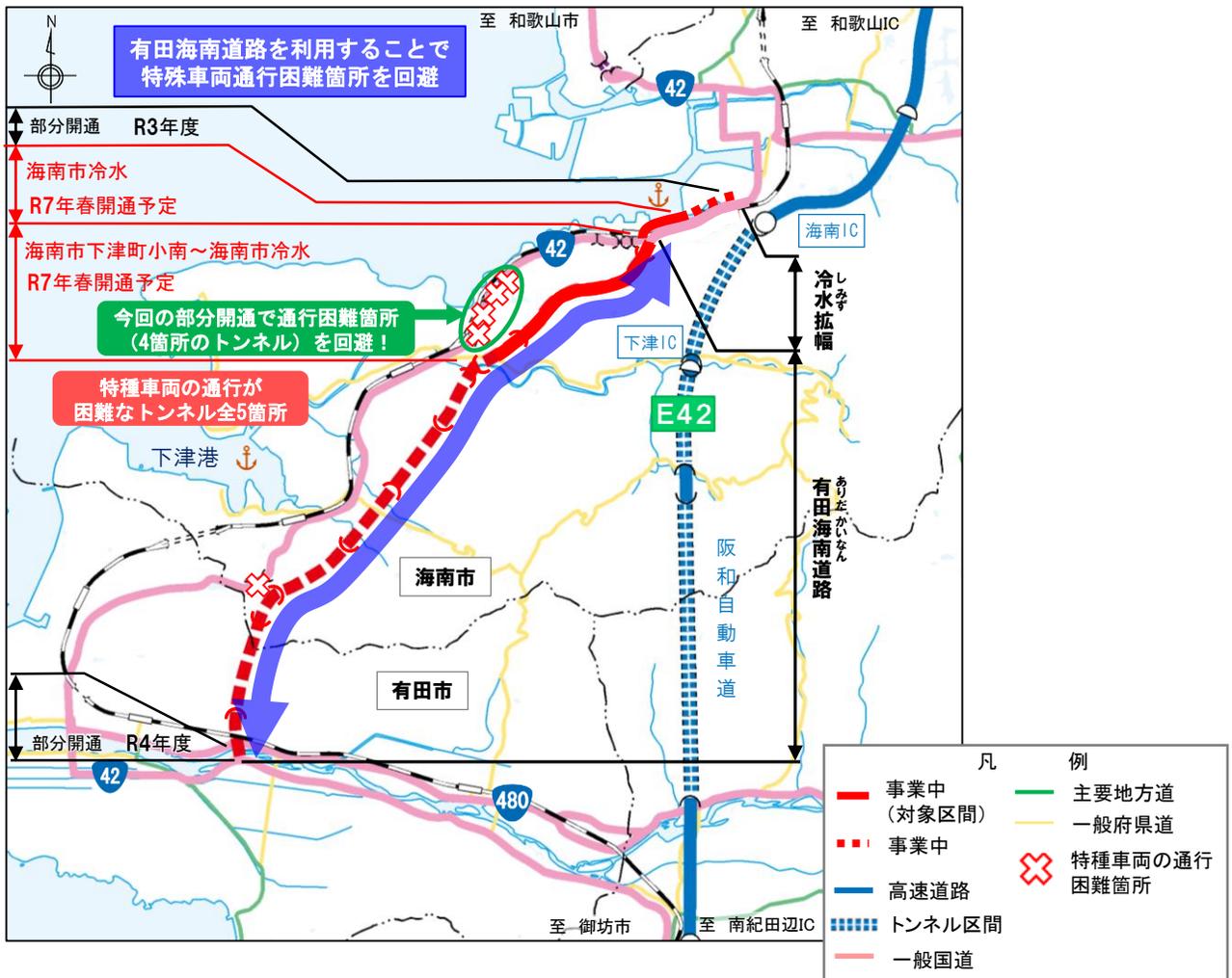
国道42号有田海南道路

期待される整備効果

◇特殊車両の通行困難箇所の回避

- ・国道42号は、高さ3.8mを超える車両の通行が困難なトンネルが5箇所あり、トンネルと積荷が衝突する事故も発生しています。
- ・今回の有田海南道路の部分開通により通行困難箇所(4箇所のトンネル)の回避が可能です。
- ・高さ3.8mを超えるコンテナ車や大型貨物の特殊車両が通行可能となり、物流支援が期待されます。

■特殊車両の通行が困難なトンネル位置



■現道トンネルと有田海南道路トンネル

■現道トンネル(塩津第一トンネル)

高さが低いトンネル
(国道42号現道)

新しいトンネル
(有田海南道路)

<積荷とトンネルの接触事故の発生>

<特殊車両の通過の様子>



▲H23.9.13(火) 22:15頃発生
積荷が横転し、約3時間通行止



▲センターラインをはみ出して通行

国道42号有田海南道路・冷水拡幅

期待される整備効果

◇道の駅を拠点とした地域産業の振興と防災機能の強化

- ・ 海南市では、令和5年度の開駅を目指して、下津町小南地区に道の駅の整備を進めています。
- ・ 当該地域に「道の駅」が整備されることで、道路利用者の利便性向上、安心・安全を確保することはもとより、災害時の防災機能等を確保するほか、地域の元気を創る拠点として、地域の産業振興、海南市の魅力を発信する拠点として、観光振興等の地域活性化の起爆剤として効果が期待されています。
- ・ 今回の有田海南道路の一部区間および冷水拡幅の全線開通により、道の駅を拠点とした海南市の周遊観光の促進と、特産品の販路拡大および防災機能の強化を支援します。

■道の駅計画と有田海南道路・冷水拡幅の連携イメージ



国道42号 有田海南道路・冷水拡幅の整備状況

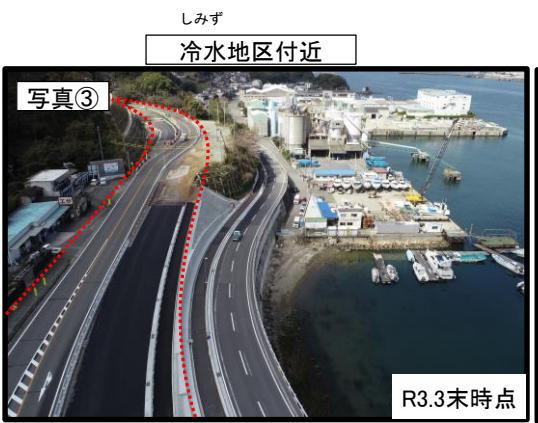
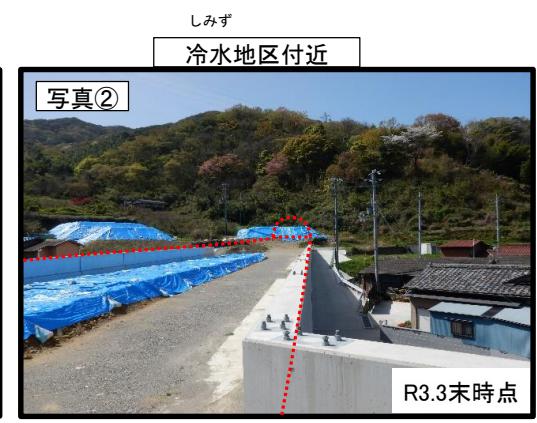
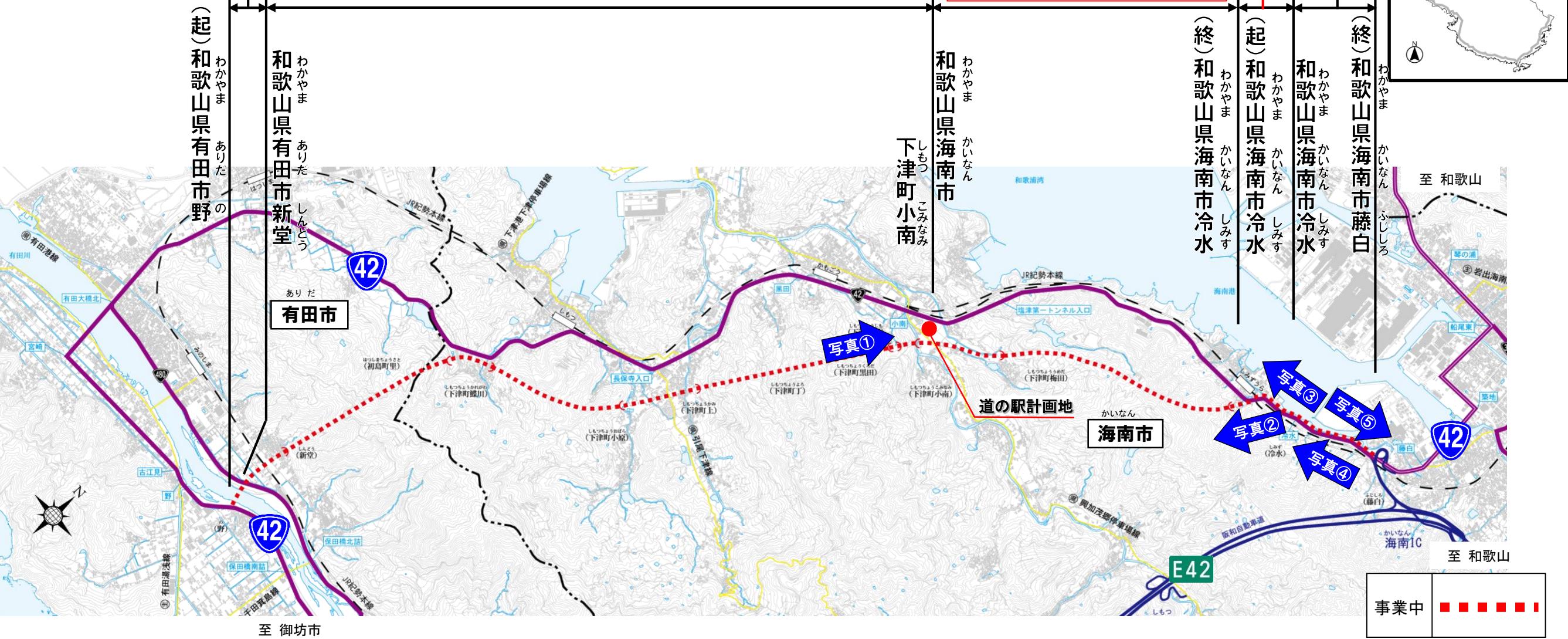
ありだ かいなん
有田海南道路 9.4km

しみず
冷水拡幅 1.1km



R4年度開通予定 L=0.2km R3年度開通予定 L=0.7km

R7年春開通予定 L=0.4km
R7年春開通予定 L=2.9km



国道42号 新宮紀宝道路の概要

近畿自動車道紀勢線は、大阪府松原市を起点に、三重県多気郡多気町に至る延長約340kmの国土開発幹線自動車道です。本道路は紀伊半島の各都市と国土軸を結び、輸送時間の短縮や国道42号の混雑緩和を図り、地域相互の産業、経済、文化、観光の振興と発展に資することを目的とする道路です。

新宮紀宝道路(紀宝～新宮北間)は、国道42号の渋滞緩和による地域相互の振興と発展に寄与するほか、台風等による土砂災害や南海トラフ地震等の地震災害時におけるネットワークを構築による救命活動や観光をはじめとした地域振興支援、救急医療活動の支援を主な目的とする道路です。

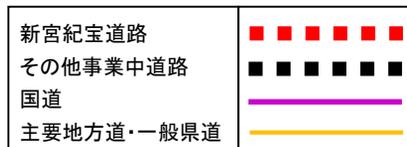
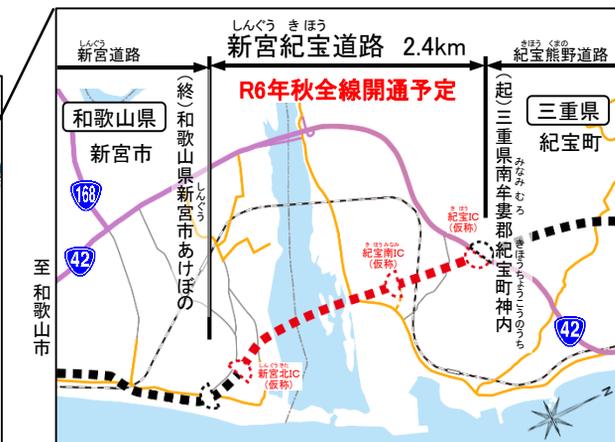
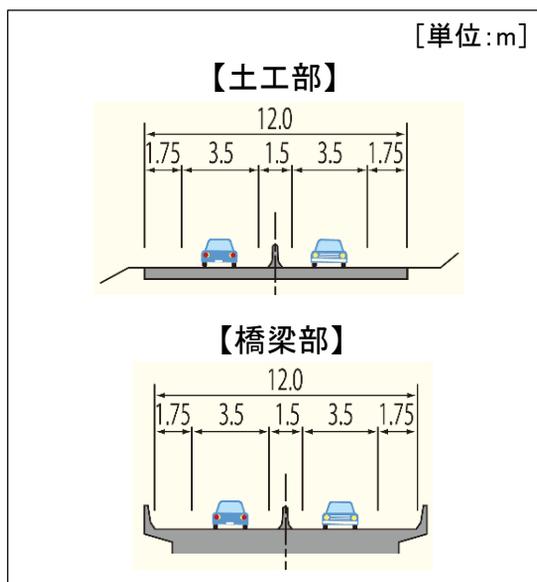
【事業の概要】

区 間	(起)三重県南牟婁郡紀宝町神内 (終)和歌山県新宮市あけぼの
道路延長	2.4km
構造規格	第1種第3級
設計速度	80km/h
車線数	2車線
標準幅員	12.0m

【主な事業の経緯】

事業化	平成25年度
用地着手	平成29年度
工事着手	平成29年度

【標準断面図】



国道42号新宮紀宝道路

期待される整備効果

◇災害時の交通確保

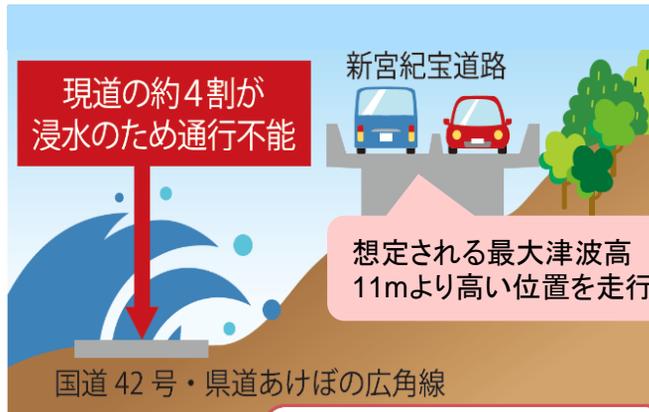
しんぐう きほう 新宮紀宝道路の現道区間である一般国道42号現道のうち、紀宝町の大部分の区間が津波により浸水し通行不能になると予測。

平成23年9月の台風12号では、熊野川の氾濫で国道42号の通行止めが発生。

しんぐう きほう 新宮紀宝道路は、十分な高さを確保した計画であり、前後区間を含めた整備により、東南海・南海地震時の津波などによる浸水時には、迂回路、避難路及び避難場所として機能。



熊野大橋をのみこむ熊野川の濁流 (H23 紀伊半島大水害)



津波発生時のイメージ図



(※) 出典: 南海トラフの巨大地震による浸水想定 (H25.3 和歌山県、三重県)

国道42号新宮紀宝道路

期待される整備効果

◇交通混雑の緩和

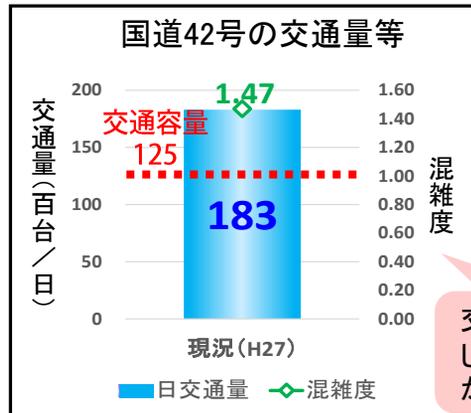
熊野川渡河部における幹線道路は国道42号に限られているため、交通が集中し慢性的に渋滞が発生。

しんぐう きほう

新宮紀宝道路の整備により、熊野川渡河部の交通が分散、交通渋滞の緩和に期待。



※平成28年8月13日(土)撮影

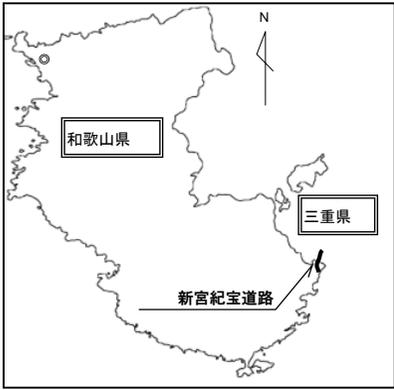


交通容量を超えてしまい、日々渋滞が発生

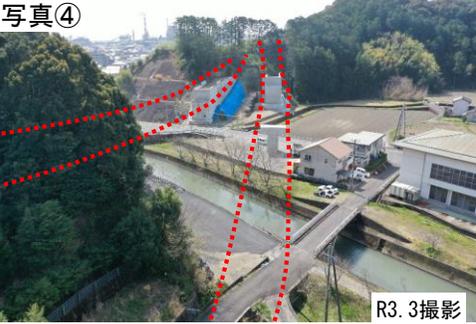
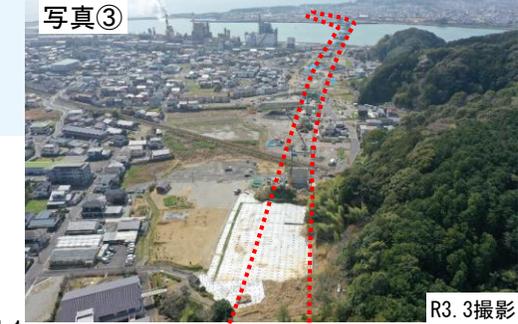
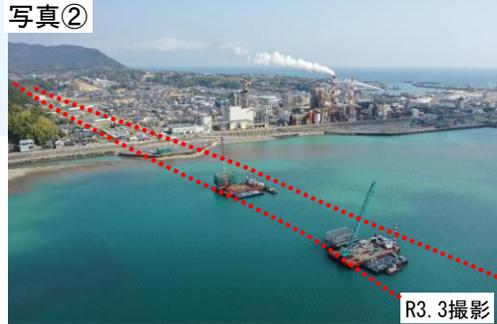
出典:平成27年度 道路交通量調査

国道42号

新宮紀宝道路の整備状況



事業中 



国道42号すさみ串本道路

期待される整備効果

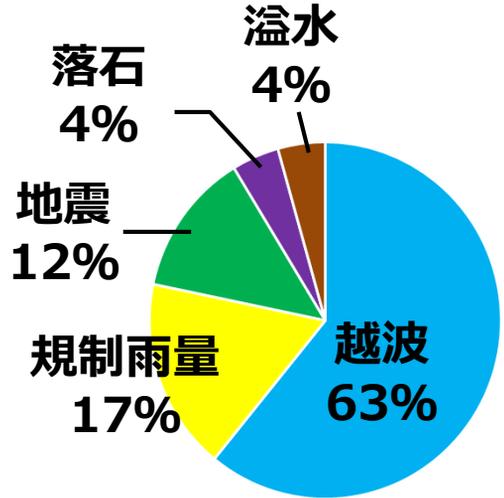
◇災害時の交通の確保

南海トラフ巨大地震においては津波により在来の国道42号線の約6割の区間が浸水すると予測される。すさみ串本道路は津波に対して十分な高さを確保した計画であることから大規模災害時において緊急輸送路や一時的避難場所として活用できる。

■交通規制の状況 (H21~H30)

延べ規制回数	24回
延べ規制時間	約102時間
要因	6割以上が越波

■交通規制の要因割合 (H21~H30)



■通行止め状況写真



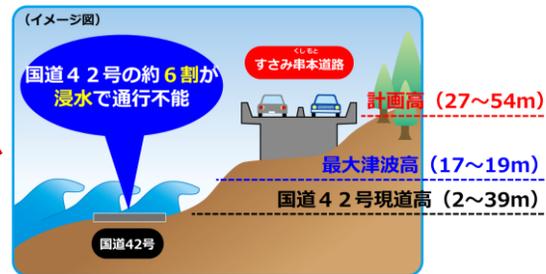
①台風による越波状況
(すさみ町江住地先)

②法面からの落石状況
(串本町田子地先)

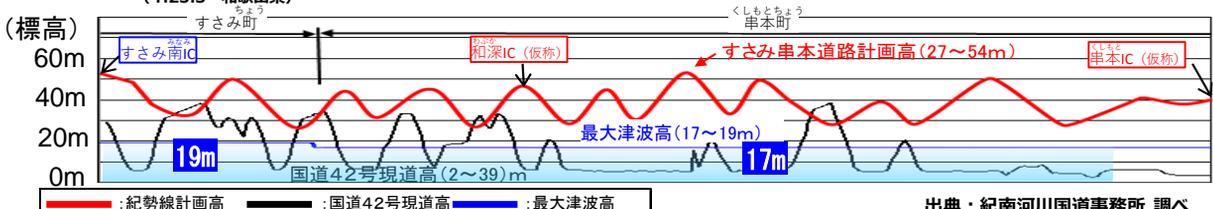


出典：南海トラフの巨大地震による浸水想定 (H25.3 和歌山県)

■すさみ串本道路・国道42号の高さと最大津波高の関係



出典：南海トラフの巨大地震による浸水想定 (H25.3 和歌山県)



出典：紀南河川国道事務所 調べ

国道42号すさみ串本道路

期待される整備効果

◇救急医療活動の支援

すさみ串本道路の開通により、三次救急医療機関である南和歌山医療センターへの搬送時間が短縮される(60分から約49分へ短縮が可能)。

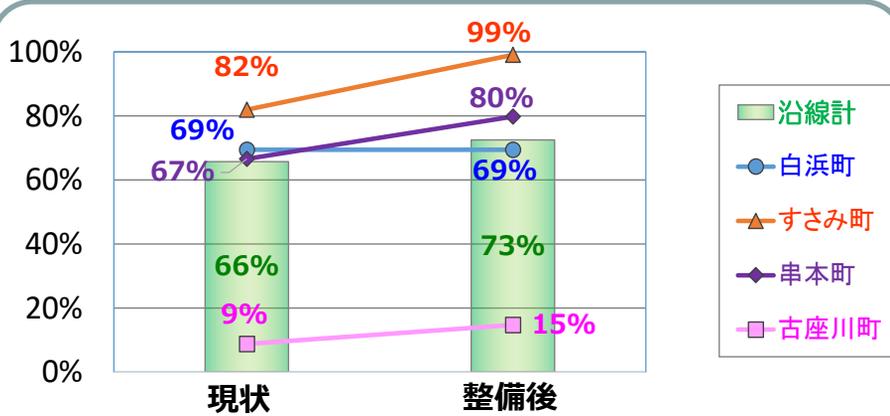
加えて搬送の定時性や走行安定性が確保され、搬送時の処置対応が容易になるなど、救急医療活動に貢献する。

その結果、南和歌山医療センターへの60分圏内人口は現在約1.7万人が約2.5万人へと約1.5倍の増加が可能となる。

■串本町より南和歌山医療センターへの時間短縮



■南和歌山医療センターへの事業区間沿線地域の60分圏域人口カバー率※



※事業区間沿線地域は、近畿道紀勢線の利用が想定される白浜町、すさみ町、串本町、古座川町

※60分圏域について
 (ゴールデン・アワー)
 外傷による死亡の疫学調査の結果、受傷から1時間以内に手術室に搬入していれば救命できた可能性のある例がかなりの割合に上ることが分かったことから、受傷から1時間以内をゴールデン・アワーと通称したものの

国道42号 すさみ串本道路の整備状況

きせい
紀勢自動車道
(田辺～すさみ)

くしもと
すさみ串本道路 19.2km

くしもとたいじ
串本太地道路

R7年春全線開通予定

